

第3回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会

日時：平成27年11月25日（水） 午後1時30分～午後4時

場所：港北区役所4階 特別会議室

議事次第

1 開会

2 議題

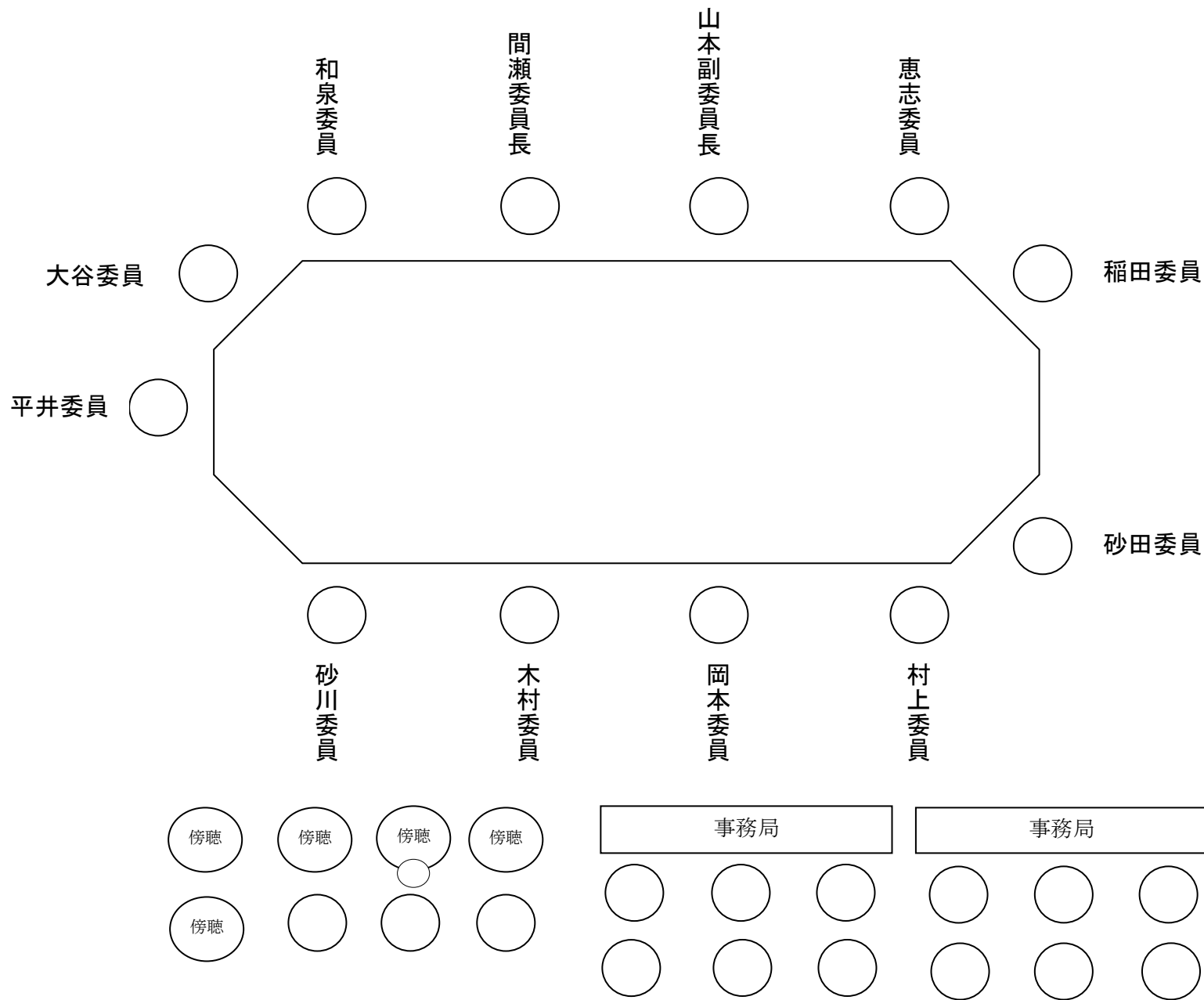
- (1) 第2回委員会会議録の確認について【資料2】
- (2) 区民文化センターニュース 第3号の発行について【資料3】
- (3) 答申（たたき台）に関する意見交換【資料4】

資料目次

資料1	第3回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
資料2	第2回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録
資料3	港北区 区民文化センターニュース 第3号（案）
資料4	横浜市港北区における区民文化センター基本構想 答申（たたき台）

第3回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表
 平成27年11月25日(水) 午後1時30分～午後4時 港北区役所特別会議室

資料1



テレビ

事務局

入口

第 2 回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録	
日 時	平成 27 年 10 月 28 日 (水) 午後 1 時 30 分～午後 4 時
開 催 場 所	港北区役所 4 階 特別会議室
出 席 者	<p>【委員】 間瀬勝一委員長、山本貞副委員長、和泉利政委員、恵志美奈子委員、大谷宗弘委員、岡本直美委員、木村江里委員、砂川由利子委員、砂田俊彦委員、平井誠二委員、村上テル子委員 (委員は五十音順)</p> <p>【事務局】 港北区長、港北区副区長、港北区区政推進課長、港北区地域振興課長、文化観光局文化振興課長、有限会社空間創造研究所 ほか関係職員</p>
欠 席 者	稲田奈緒美委員
開 催 形 態	公開 (傍聴者 2 人)
議 題	1. 第 1 回委員会会議録の確認について 2. 区民文化センターニュース 第 2 号の発行について 3. 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトに関する意見交換
決 定 事 項	本日出された各委員の意見を事務局にてまとめ、次回検討の際の参考とする
議 事	<p>開会</p> <p>(間瀬委員長) それでは、定刻となったので、ただいまより「第 2 回 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を始める。 今日は、港北区民交響楽団の砂田委員が初出席となるので、まずは砂田委員から一言自己紹介を頂ければと思う。</p> <p>(砂田委員) 港北区民交響楽団の前団長を務めた。現団長に代わり委員として出席している。区民交響楽団は 30 年活動を続けてきた。区民の役に立つようなホールができるよう、意見を述べさせていただきます。</p> <p>(間瀬委員長) ありがとうございます。 それでは、議事に入る前に、条例に基づく定足数の確認について事務局より報告をお願いしたい。</p> <p>(事務局) 「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例」の第 6 条第 2 項に「委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。」と定められている。本日の出席委員数は、現在定数 12 人のうち 11 人である。 よって、出席委員数は半数以上で、本会が成立していることを</p>

報告する。

なお、本会議については原則公開と定められているが、本日は傍聴人が2人いらしているの御了承いただきたい。

(間瀬委員長) ただいま報告のとおり、条例に基づき委員会が成立していることが確認できたので議事に入る。

1. 第1回委員会会議録の確認について

(事務局) 資料2について説明

(間瀬委員長) ただいまの説明について御異議・御質問等はないか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 異議が無いようなので第1回委員会会議録を事務局作成のとおり確定とする。公開の手続きをお願いしたい。

2. 区民文化センターニュース、第2号の発行について

(事務局) 資料3について説明

(間瀬委員長) 区民文化センター見学会に参加された方の御感想をお伺いしたい。

(平井委員) 緑区民文化センター、神奈川区民文化センターの両方を拝見した。両施設とも、利用者がいかにセンターを有効活用できるか、利用者目線でいかにプラスになるかを最優先に造られている、というお話をお伺いした。

一方で、緑区民文化センターでは、職員の会議をする場や、掃除の方の休憩スペースが無いとのことだった。限られたスペースの中では、利用者目線が優先となり、そうしたことは後回しにされがちだが、よりよい運営のためには配慮が必要と感じた。

個々の施設の細かい点については、後ほど行われる議論の中でお話しできればと思う。

(砂川委員) 緑区民文化センターは新しく、設備も素晴らしいと感じた。特にピアノは素晴らしかった。しかし、ピアノは非常に高額なもの

で、どれだけの方に聴いていただけるかということと、金額のバランスを取るのが難しいと感じた。

また、平井委員がおっしゃったことと同様のことも感じた。

展示スペースに関しては、利用者の要望が設計に反映されていない部分も多かった。利用者の要望を設計者がどれだけ汲み取れるのが難しいと感じた。

(岡本委員) 緑区民文化センターはとても綺麗な区民文化センターであり、見学しながら、港北のニーズにあったものを造るにはどうしたらいいかを考えた。

(村上委員) 緑区民文化センターにはピアノ庫も完備され、素晴らしいピアノがあった。しかし、ピアノの10分の1ほどの金額の所作台は利用者が少ないから備品として持っていないとのことで、寂しく感じた。

リハーサル室を楽屋として利用する場合に、舞台と裏動線で繋がっていないとのことだった。化粧等をしている場合は表に出られないので、楽屋から舞台への裏動線は必要だと感じた。

また、両館とも空調がうまく作動しないところがあるとのことだったが、設計上で無理があったのではないかと感じた。

(間瀬委員長) ありがとうございます。

この後の議論でも、見学いただいた施設の不具合等について御発言を頂ければと思う。

区民文化センターニュース第2号を確定としてよいか。

(委員) 発声なし

(間瀬委員長) 区民文化センターニュース第2号を事務局説明のとおり確定とする。第2号発行の手続きをお願いしたい。

3. 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトに関する意見交換

(間瀬委員長) 前回は事務局からのレクチャーを元に皆さんから一言ずついただいたところだが、今回は前半で施設のスペック・仕様、後半で区民文化センターの運営方法やコンセプトなどについて意見交換し、次回までに、意見を踏まえた答申のたたき台の作成をしたいと思う。

	<p>については、事務局が前回の意見交換を踏まえて資料を用意しているので、説明をお願いしたい。</p>
(事務局)	資料4 おもて面について説明
(空間創造研究所)	資料5 について説明
(間瀬委員長)	まずはホール、音楽ルーム（リハーサル室）、ギャラリーについて御意見をお伺いしたい。
(山本委員)	港北公会堂は、演劇、音楽、多目的のうちどの分類のホールとなるのか。また、3つのタイプの中では、どのタイプ稼働率が高いのか。
(事務局)	港北公会堂は集会所という扱いである。文化芸術活動に特化しているわけではなく、講演会やセミナーを行う場所に近いので、文化芸術活動には使い勝手が悪いという声もある。横浜市の区民文化センターにおいては、多目的ホールの稼働率が一番高い。
(山本委員)	区民の活動分野は多岐に渡っており、どのようなニーズがあるのか難しいところである。
(事務局)	アンケート調査では音楽の利用が最も多いが、演劇やダンス、舞踊や、絵画展示などギャラリーを利用する活動も多く、幅広いニーズがあることが港北の特徴かと思う。
(山本委員)	例えば、音楽に特化した形のホールを運営することは難しいのか。
(間瀬委員長)	音楽ホールは、多目的ホールに比べ舞台袖が狭く、大道具の捌きなどに影響するため、利用の用途が制限される傾向にある。ただし、多目的ホールであっても音楽公演を行うことは十分可能である。例えば、杉田劇場を整備する際には、「音楽公演も実施できる多目的ホール」を整備することとし、残響時間等にも考慮した。
(恵志委員)	まず、実際に利用する人はどのようなホールを使いたいかの希望を聞き、その利用に必要なものはどんな施設機能なのか、とい

	<p>うことを検討しなければならない。ホールの目的を達成するためには、どの程度まで対応が必要なのか、ということから考えた方が良いのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 私がいくつかの区民文化センターの館長を務めてきた経験として、基本的に区民文化センターは「何でもあり」というのが実情である。利用者全員が満足する機能を備えることが求められるが、それが実際に可能かどうか、という話である。</p> <p>(砂田委員) 港北区民交響楽団ではこれまでに、みなとみらいホール、神奈川県立音楽堂、神奈川県民ホール、港北公会堂で演奏したことがある。また個人的には東京文化会館や東京芸術劇場などでも演奏を行った。</p> <p>音楽ホールは音楽にしか利用できない。鎌倉芸術館のような可動式の音響反響板を備え、音楽以外にも利用できる多目的ホールが良いのではないか。ただし、音楽ホールであっても、必ずしも袖舞台が無いというわけではない。</p> <p>ギャラリーに関連してだが、障害者スポーツ文化センター横浜ラポールの、ラポールボックスをリハーサルで利用していた。主にギャラリーとして使える多目的室だが、天井高があるため、音楽の練習にも利用できる。あのようなギャラリーは使い勝手が良いのではないか。</p> <p>(村上委員) 多目的ホールは皆に利用価値があると思う。色々な分野の方が活動しているので、多目的ホールにしてほしい。</p> <p>私たちの活動では着物を着るので、和室の楽屋が1室はほしい。神奈川区民文化センターではござを貸し出すとのことだったが、畳とござでは違う。また、楽屋にはお湯の出る流しが必要ではないか。</p> <p>緑区民文化センターのギャラリーは使い勝手が悪いとのことだった。専門分野の方が入り設計をした方がよい。</p> <p>ホールは、客席勾配が急だと観客が大変である。ある程度緩やかにできればと思う。</p> <p>(間瀬委員長) 観客からの「前の人が邪魔で舞台が見えない」という苦情に答えるため、近年特に勾配がきつくなっている。</p> <p>神奈川区民文化センターは客席勾配が比較的急である。逆に、国立劇場のように、勾配がゆるく、前方と後方で花道分の高さ程</p>
--	---

	<p>度しか差がない劇場もある。</p> <p>ギャラリーは、裏動線も含め、設計時に一緒に議論していかななくてはならない。</p> <p>(村上委員) 緑区民文化センターのリハーサル室には、壁面にバレエバーが設置されていたが、あれでは両側からは利用できず、使い勝手が悪い。実際に利用する方が設計段階で指摘せねばならない。また、リハーサル室はリノリウムが常に敷かれている状態になっていた。</p> <p>(間瀬委員長) リハーサル室の壁面にバーを設置すると、鏡をカーテンで閉めないと発表会等が実施できない。また、バーの両側でレッスンすることも不可能になる。リノリウムは敷きっぱなしにするのではなく、ホールで備品として備え、利用者が敷き、使い終わったら片付けるという運用をしているホールが多いだろう。</p> <p>(岡本委員) 皆さんのニーズから考えると、多目的ホールとするのが良いのではないか。ただし、舞台面を広くとっていただきたい。緑区民文化センターもフルオーケストラは舞台に乗らない大きさだった。客席前方の座席が取り外しでき、舞台が拡張できるなど流動性のある舞台にしていただけたらと思う。区民ミュージカルの際は、港北公会堂の可動席を全て舞台としている。</p> <p>(砂田委員) 区民交響楽団でも同様に対応している。</p> <p>(岡本委員) 緑区民文化センターは Horizont 裏が通れるようになっていたので良かった。</p> <p>音楽ルーム・リハーサル室に関しては、舞台面と同じ大きさが確保できていると、リハーサルや簡易的な発表会ができる。出来る限り広い面が欲しい。</p> <p>また、我々の場合 50 人もの出演者がいるので、大きな楽屋がないと入りきらない。間仕切り等で出演者に応じた広さに区切って利用できる楽屋がほしい。客動線を通らずに会議室から舞台袖までいけるようになっていれば、会議室を楽屋として利用することも可能である。</p> <p>ラポールボックスは練習で利用するが、壁面が可動式なので、様々なニーズに応じて広さを変えられる。そのように多くのニーズに対応できるようになっていればと思う。</p>
--	--

(間瀬委員長) リハーサル室や会議室を楽屋利用するという事は、施設配置の検討で解決できる。配置や動線等も合わせ意見を頂きたい。

(木村委員) 私たちはダンスでホールを利用することが多いが、様々な公演に対応できることを考えると、多目的ホールが幅広く利用できるのではないかと。多目的ホールを補う音響反響板などを充実させれば、お金をかけなくても、広いジャンルを楽しめるホールになるのではないかと。

楽屋については、ダンスフェスティバルも出演者が250人程度いるので毎回大変である。公会堂では2階の会議室からロビーを歩いて舞台袖に行っているが、今後の対策が必要である。音楽ルームやリハーサル室を楽屋として利用することを考えると、同じフロアに楽屋と並べて練習室やリハーサル室を配置すれば、出演者の人数により楽屋を増やすことが可能となる。

茅ヶ崎市民文化会館では、楽屋と練習室、展示室が扉を隔てて繋がっており、楽屋のみの利用の際には扉を閉め、多くの楽屋を利用したいときは扉を開けることで練習室や展示室を楽屋として利用することができる。配置を考えれば、楽屋の問題はかなり解決するのではないかと。

床面は、コンクリートの上にPタイルのような床だと、固く足を痛めてしまう。可能であれば木の床がよい。リノリウムは備品として備えればよい。港北公会堂は備品のリノリウムがなく、団体のものを区役所に保管していただいている。利用するのはダンスの団体だけではないが、他のジャンルとも意見を摺り合わせ、考慮していただけたらと思う。

(間瀬委員長) 備品が増えると、多くの倉庫が必要となる。そのバランスも難しい問題である。

(砂川委員) 多目的ホールが良いと思う。私が最初に体験した多目的ホールはラポールだった。ラポールは可動式の客席だったが、今は神奈川区民文化センターのように固定席の多目的ホールも多くある。可動客席になるタイプの多目的ホールで、平土間形式でダンス等に利用している施設もある。どういうタイプの客席にするかは、ニーズ等を見て判断していくのではないかと。可動客席は人が移動する時に音がするので、観客から見たら固定席がよいのではないかと。

私は合唱団として活動しているが、グループによって人数のばらつきがある。8人程度のグループから、多い時では90人もの利用がある。諸室を間仕切りで区切り、人数の変化に対応できればと思う。また、練習には声を出すので、防音等との兼ね合いも難しい。

ギャラリーは照明の明るさが調光できることが重要である。また、お年寄りが展示準備の際に脚立などを利用し、怪我をされることがあるとのことだった。今の時代は、展示の補助ができる機械や自在に長さを変えられる展示用のワイヤーなどがあるのではないか。そういったものを有効活用したい。

(間瀬委員長) 可動客席は、基本的には平土間としての利用もできるようにするために設置される。例えば、平土間にするだけで展示や社交ダンスなどを行うことができる。可動客席はいわば究極の多目的ではあるが、ホールとして利用する場合には問題がある場合もある。音響性能については、昔よりよくなってきているとは言われている。どの範囲までの多目的とするかは、また議論をしたい。

(平井委員) 利用する方々が多目的ホールが良いというならば、それで良いと思う。

客席は車椅子席をなるべく多く確保できるとよい。緑区民文化センターは合計4席といていたが、神奈川区民文化センターは前の2列を外し、その2列全てを車椅子席として対応出来るとの事だった。将来的なことを考えると、神奈川区民文化センターのように手厚い対応があっても良いのではないか。ただし、外した椅子の置き場所なども問題になると思う。駅から直接のアクセスが出来る施設、という面からみても車椅子の方が利用しやすい施設となるので、対応を考えていただきたい。

ギャラリーだが、掛け軸など、ある程度大きな作品が展示できる天井高がほしい。神奈川区民文化センターでは、ギャラリーの一部を高くしていたので、そのような対応も可能かと思う。書道などをされている方にとっては、天井高が必要となる。

ギャラリーの多くは一週間単位で貸し出されており、主催者は常に会場にいななければならないが、主催者控室がないとまったく休憩ができない。主催者側の利用が不便だといわれていた。狭くても休憩や歓談ができるスペースが必要と感じた。

また、以前緑区民文化センターのリハーサル室で講演会を開催されていた。このように、利用状況としては、部屋の名称以外の

	<p>目的にも利用されている。部屋の名称を工夫し、区民に広報することで、主目的のリハーサル以外にも利用しやすくなるのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) 杉田劇場はリハーサル室の愛称がコスモスだった。条例上はリハーサル室であり、公にコスモスとすることはできなかったが、愛称としてチラシに掲載することは運用の中で可能である。</p> <p>(大谷委員) 港北には多様な文化があるので、多目的ホールが一番よいのではないか。現在の計画では区民文化センターは2フロアに渡るとのことだが、座席数についてもなるべく確保をしていただきたい。</p> <p>リハーサル室については、用途をリハーサルに特定せず、音楽ルーム等としても利用できるように設計をするのが良いのではないか。</p> <p>ギャラリーはどの程度のスペースが確保できるかにもよるが、間仕切りの必要がある。また、天井高が3m以下では、作品の展示に堪えないのではないか。</p> <p>(間瀬委員長) ギャラリーは何号位の絵まで展示できればよいか。</p> <p>(大谷委員) 200号程度の展示を行いたい。</p> <p>(間瀬委員長) 国立新美術館では、ピクチャーレールが2段になっており、2段の展示が可能になっている。そのような設備を整えれば、大きな作品から小さな作品まで対応できる。</p> <p>(和泉委員) 多目的ホールがよいのではないか。ギャラリー、リハーサル室、練習室と用途を限定しないのは良いと思う。</p> <p>また、和室の控室が欲しいとの意見があったが、和事をされている方はみなそうおっしゃっている。</p> <p>(間瀬委員長) 藤沢市民会館は、楽屋4部屋のうち1室が和室だったが、海外オーケストラなどの際にはベニヤを敷いて土足が可能なように対応した。逆に和室が必要な際には、50枚程度畳に近い床材を用意しておいて、リハーサル室に敷いて対応したこともある。</p> <p>和室、洋室ともに需要があり難しいが、和室が重要という意見がお二方からあったことは記録しておいていただきたい。</p>
--	--

	<p>(山本委員) 皆さんの意見を伺い、多目的ホールの希望が多いのは最もだと感じた。音楽よりの多目的、演劇よりの多目的にするか、などは今後の調整が思う。</p> <p>複合施設になるが、空調は区民文化センターだけ独立しているのか、セントラルになるのか。</p> <p>(間瀬委員長) 設計、施工段階の話なのでどのようになるかはわからないが、杉田劇場の場合区民文化センターと他の施設との空調は別になっていた。ホール事務所に中央監視盤があり、空調関係を遠隔操作し、部屋ごとに温度設定ができるようになっていた。可能ならば、楽屋毎に空調を設定できたほうが良いと思っている。</p> <p>(山本委員) ギャラリーの調光だが、ダイヤルで明るさが調整できる設備は備えた方が良い。また、高さについては、ピクチャーレールを中段にも設置し2段とすることで、低い場所にも展示できる。また、作品は光源から離れたほうが綺麗にみえるので考慮していただきたい。</p> <p>年配の方が高所作業で事故を起こすことはある。国立新美術館では、展示は業者が作業することになっている。趣味で展示活動を行う場合なるべく経費を抑えたいということも理解できるが、脚立から落ちるのは大きな事故となる可能性がある。</p> <p>(間瀬委員長) 照明の回路は調光ができるように考慮していただきたい。ピクチャーレールを2段に設置すれば、様々な展示に対応可能かと思う。</p> <p>(恵志委員) 「ハレの日の発表会としての舞台がこうあったらいい」という意見が多いが、実際には音楽ルームやギャラリーは、様々な使われ方をされるだろう。</p> <p>世田谷パブリックシアターは劇場が2つあり、各ホールの舞台面の広さがとれる2つの稽古場と、それより小さいがリーディング（本読み）等が可能な稽古場の3つを持っているが、劇場制作の本数は多くなくても稽古場の利用はいっぱいである。</p> <p>発表は週末の2日間でも、練習は本番から遡って1か月、2か月必要となる。毎週末発表会があるとすると、発表には使えても、稽古場は区民文化センター以外で探さねばならない。ホールの稼働率を上げながら皆さんがリハーサル室を利用するには何室必要かの検討が必要と感じた。世田谷パブリックシアターでは、ワ</p>
--	--

ークショップなどは他のセクションの展示スペースを借りることもある。

以前に、ホールの自主事業としてワークショップなども検討したいという話があったが、ホールで行うのか、他に場所を見つけるつもりなのか。区民文化センターで行うとすると、ますます練習利用と競合する。色んな人が活発に活動する面白い場所となるためには、リハーサル室等の検討が必要である。

稽古場の天井の高さは大切である。稽古場で発表会をすることもあるが、ある程度高さがある諸室とそうでない諸室では印象が全く違う。稽古場を色々と活用する、という意味では、広さよりも高さが重要と思う。

(間瀬委員長) 展示ギャラリーに水場は必要か。

(恵志委員) 美術系のワークショップをするならば、手が洗える水場があったほうがいい。諸室に水場が無くてもバケツ等で対応することも可能だが、室の中には無くとも近くには必要になるだろう。

(砂田委員) 舞台面はなるべく広く確保してほしい。200 m²程度取れると良い。奥行 20m、間口 19~20mを確保できるとよい。神奈川県立音楽堂がその程度だが、200 m²程度確保できれば、オーケストラが可能である。

港北区には約 40 年の歴史を誇る吹奏楽団もある。リハーサル室を充実させていただきたい。現在はリハーサル室が不足しており、港北公会堂や都筑公会堂、神奈川中学のコミュニティハウスなどを転々として練習している。港北区内で練習をしたい。

オーケストラや吹奏楽の練習をするのに必要な大きさとして他施設の事例を上げると、東京文化会館地下の A リハーサル室が木の床で 175 m²、B リハーサル室は 135 m²、みなとみらいホールリハーサル室は 212 m²、東京芸術劇場は 162 m²、ラポールボックス 240 m²である。ラポールボックスは部屋の形状がいびつなため、実質は 200 m²以下だろう。200 m²程度あれば、交響楽団や吹奏楽団は非常に良い。またギャラリーと兼用することも可能かと思う。先ほどギャラリーの天井は高いほうが良いという意見が多く出ていたが、交響楽団・吹奏楽団の練習スペースとしても天井が高いほうが望ましいので、そういう意味でマッチするのではないか。残響などはそれほど贅沢を言わないので広さを確保してほしい。スペースが無ければ、ギャラリーと兼用でも構わない。

	<p>(リハーサル室の) ピアノはフルコンでなくて良いので、グラ ンドピアノと、ピアノ庫を備えてほしい。また、ピアノを台ごと 移動できる装置があるとよい。</p> <p>(村上委員) ホールの音響と照明を充実させていただきたい。また女性用の トイレの数にも配慮していただきたい。</p> <p>(岡本委員) ホールが4、5階になるので、搬入が大変だと思う。可能なら ば奥行6 m程度の大きなエレベーターがあればよい。パネルを分 解しないためには6 m必要である。また、楽器を運ぶなどのため にもエレベーターは必要となる。搬入口には4 tトラックが付け られなければ困る。</p> <p>また、舞台においては、パネルを飛ばせる高さを備えたフライ ロフトを備えてほしい。袖幕は深くしてほしい。また、非常灯を 減光できるタイプにしてほしい。</p> <p>舞台装置を修正する際に水場があると良い。港北公会堂は水場 がないためにトイレに流している。舞台袖に水場が無くてもよい が、近くには設置していただきたい。ドライアイスの水を捨てる 流しも必要である。</p> <p>(間瀬委員長) 弦楽器は水を嫌うという、演劇と音楽で反する面もある。多く は、舞台近くのトイレの掃除用の大きい流しを使うなどで対応し ている。</p> <p>区民文化センターのエレベーターはどこも、基本的に 12 尺の ものが入るように設置されている。それよりも大きな6 mとな ると特注しなくてはならないので、経費が相当高くなる。みなとみ らいホールはピアノが2台乗るエレベーターが設置されている。 搬入口の位置と舞台袖の関係などは設計で工夫していただきた い。</p> <p>(木村委員) 団体が小さかった頃は、リハーサル室に幕やスクリーンを仕込 んで、簡易的な発表会を行っていた。例えば鏡を隠すことができ、 ピアノの搬入が可能ならば、ピアノ発表会の実施も可能である。 機能を充実させることにより、リハーサル室の利用価値が上がる のではないか。</p> <p>ギャラリー展示について、展示作業を業者に頼むべきとのこと だったが、ダンスフェスティバルでも、プロの舞台監督について いただき、吊り物やバトンの昇降は舞台監督が行っている。以前</p>
--	---

	<p>(大谷委員) 多機能な施設を整備しなければならないので、どこに重点を置くかは難しい。多目的ホール、リハーサル室、音楽ホール、ギャラリーは特に大きな要素である。他の施設を参考にしながら、良いものを造っていただきたい。</p> <p>(和泉委員) 多目的ホールであるということ、またリハーサル室、ギャラリーが重点となる。いい案を出し、港北のシンボルとなる施設になればと思う。</p> <p>(休憩)</p> <p>(間瀬委員長) 会議を再開する。 引き続き、諸室、練習室・会議室・情報コーナー等、また建物全体の動線や活動内容に関する意見も頂きたい。</p> <p>(和泉委員) これまでに様々な意見がでた。これから作る施設なので事務局でも良い案を出し、良い施設になればと思う。</p> <p>(大谷委員) 練習室は必要不可欠である。会議室は緑区民文化センターのように、2室に区切って利用できるようにするのが良いのではないか。 区民文化センターなので、情報コーナーの図書などはある程度揃えていただきたい。情報コーナーと交流ロビーは兼ねている場合が多いので、可能であればカフェのようなものを考えていただきたい。 利用者が集まり、話ができる場所が必要である。他の区民文化センターを良く見学して、ホワイエの広さなどを調整できればと思う。</p> <p>(平井委員) 見学の際に、練習室の利用が一番多いと伺った。神奈川区民文化センターは練習室が2室と少なく、利用希望者が溢れている状況とのことだった。広さの違う部屋を3室以上整備したほうがよい。 情報コーナーと活動支援機能はまとめて一つでも良いとも思うが、交通の便が良い所なのでホールや練習室を利用する以外にも、情報を集めたり作業室を利用したりという目的で来館者が増えるような設計をしていただきたい。</p>
--	---

	<p>廊下の隅にチラシを置いてだけで「情報コーナー」としている施設もあるが、いかがなものか。また、コピー機や印刷機は必要となるので備えていただきたい。</p> <p>緑区民文化センターは、交流ロビーにミーティング用の机がなく、打合せが出来ないとの事だった。机と椅子があるスペースは必要である。</p> <p>駅から施設への動線は確保されるとおもうが、駐車場からの動線はどれだけ確保できるのか。身障者の駐車場からのアクセスにも配慮してほしい。駅直結の施設であっても車で来館する人もいる。</p> <p>(間瀬委員長) 神奈川県民文化センターは駐車場が無かったので、数台の駐車場をホールが借り、利用者に提供していた。今回、駐車場がどのようなシステムになるかはまだ見えないが、駐車場の動線、客動線は全体の中で議論が必要である。</p> <p>(砂川委員) 練習室は複数が必要である。少人数から大人数に対応できるようにしていただきたい。また、会議室は利用人数に応じて間仕切りで大きさが可変できるように考えて頂きたい。</p> <p>情報コーナーは、机と椅子があり、話せるスペースがあればよい。その他の活動支援機能として利用者用ロッカーとコピー機は必要である。</p> <p>(木村委員) 練習室と会議室は区切りを無くし、どちらにも対応できるようにしてどうか。どの部屋も音を出しても大丈夫のようにし、どんな用途にも使えるようにした方が使い勝手が良いのではないかと。また、リハーサル室の他に広めの部屋を造り、そこを区分して利用すれば、フレキシブルに利用できるのではないかと。</p> <p>情報コーナーについては、単に情報として冊子やチラシや登録団体名簿があるだけではもったいない。理想だが、情報収集をしたり、練習場所を探したりといった手伝いや団体同士の連絡を結ぶコンシェルジュ的な役割の人がいるとよい。</p> <p>区役所内にある区民活動支援センターの会議室を利用することがあるが、職員が近くにいると疑問点をすぐに解決することができる。会議する場所と管理者が近いことが重要である。</p> <p>(間瀬委員長) 杉田劇場には「館長に聞け」という文化よろずコーナーがあったが、実際は利用の問い合わせがほとんどだった。これからは、</p>
--	---

	<p>地域の施設で求められることは専門人材を配置することだと言われているので、可能なことかと思う。</p> <p>(岡本委員) ドラムセットなどが置いてある小さな練習室が複数整備されている施設が多いが、私たちの団体としては大きめの練習室がほしい。会議室を防音にして練習室として使えるようにしていただきたい。また、女性用トイレの数は十分に配慮していただきたい。</p> <p>作業室にはコピー機だけでなく、印刷機が置いてあるとよい。また、飲食禁止の部屋が多い。情報コーナーなど、飲食可能な場所がほしい。</p> <p>施設は駅からアクセスできるとのことだが、相鉄・東急直通線からは連絡しているが、東横線からは徒歩になる。将来的にでも、東横線から新線への乗り換え地下道ができると良いと思っている。</p> <p>(間瀬委員長) 飲食可能かどうかというのは運用の問題となる。</p> <p>必ず汚す人が出るため、禁止ということになる。</p> <p>(村上委員) ロビーに休憩できる椅子を増やしてほしい。区民文化センターを見学したが、椅子の数が少ないと感じた。また、女性用トイレの充実をお願いしたい。</p> <p>(砂田委員) バンド練習が可能な練習室について、最近ではおやじバンドなども増えているので、数を増やすことが必要だと思う。ピアノは、アップライトではなくグランドピアノを備えてほしい。また、駐車場は何台程度あるのか、楽器を運んだりするので、なるべく確保していただけたらと思う。</p> <p>団体が練習の前後に打ち合わせができる場所があると良い。</p> <p>現在、各団体がティンパニーなど大型の楽器を逐一倉庫から運んでいる。港北区で実績のある団体に限って倉庫の貸与を行うなど検討していただけないか。</p> <p>(間瀬委員長) 楽器搬入の問題は以前からずっとある。演劇の団体ならば舞台装置や道具を置く場所がほしいだろう。どうしても、全員の要望に沿うのは難しい。また、楽器を預かるのは怖いので、私が運営していた頃にはお断りした。ただし、保存状況を気にしないという条件で、駐車場にコンテナを置いていたことはある。</p> <p>倉庫については、区民文化センターではなく、文化団体が活動</p>
--	--

する上での課題となるだろう。

(恵志委員)

区民文化センターの近隣には、バンド練習ができるようなスタジオ等があるのか。もし、現状で小さな場所はあるが大きな練習場がないとのことだったら、民間で足りない部分を公が補うという考え方もあると思う。利用者の皆さんで考えていただければと思う。練習場や会議室は、数が多ければ多いほどよいので、何室の整備が可能かは検討していただければと思う。

やはり、区民文化センターなので、施設の入ってすぐの場所に、カフェなどの打ち合わせスペースとして、区民が集える場所があるとよい。例えば、福祉作業所が作ったクッキーを売るカフェがあるなど、色々な方々がカフェを通じて販売できることもあってもいいと思う。

また、多少は自主事業をしたいとなった時に、それを誰が担うのか。外部の人が企画するということもあるが、皆さん熱心に活動されているので、企画を考えることもできるだろう。区民が企画を考えるときに利用できる、仮事務所のようなオープンスペースがあっても良いのではないか。

(山本委員)

カフェの設置は賛成する。国立新美術館は、オープンしてから新たに下のフロアにテーブルと椅子だけの簡易的なカフェを設置した。結果、レストランよりもカフェが一番利用されているとのことである。人件費などの問題はあがるが、親密な雰囲気のオープンカフェは交流の場になる。

(間瀬委員長)

サンハートと杉田劇場、テアトルフォンテは、テーブルと椅子がある場所に自販機を設置している。

どの施設もホールのホワイエに飲食物を提供するためのカウンターを造るが、儲けを出すことが難しいので、運営する人がいない。

(砂川委員)

緑区民文化センターは、ロビーにバーカウンターを設置したが、利用したことはないとのことだった。

(間瀬委員長)

販売業者を入れても人件費分の儲けがないのが実情である。杉田劇場では、下のフロアにあるパン屋に休憩時間だけ来て販売してもらっていた。

(恵志委員)	世田谷パブリックシアターでも、区内のパン屋に開場の時間だけ来てもらっていた。
(間瀬委員長)	みなとみらいホールでは、ホールを借りるとレセプションもセットになっている。また、自由席ではなく指定席でないとならないなどの制限もあった。区民文化センターでそこまでやるかどうか、という話もある。
(村上委員)	今はみなとみらいホールでも、自由席が可能になっている。パークカウンターではなく、自販機が落ち着く所ではないか。
(間瀬委員長)	利用者が打ち合わせをできる場は必要となる。
(平井委員)	緑区民文化センターでは、自販機を置く場所が情報コーナーになっており、自販機があるためにチラシが少ししか置いていなかった。設計段階で自販機の場所が決まっていれば問題なかったことだろう。
(間瀬委員長)	杉田劇場は設計段階から自販機の設置場所を決めていた。設計段階から可能なのであれば空間を決めたほうがよい。
(山本委員)	ギャラリーの壁面にピンが打てないという話がでていたが、どのような壁なのか。最近ではピンではなく、貼るタイプの展示用品もでている。
(間瀬委員長)	壁面がコンクリートのような固いものや、裏側が石膏ボードのまま、ピンを挿すと壁がぼろぼろと崩れるような素材もある。実施設計の段階で、どんな部材を使い、どのような仕上げになるのかをチェックしなければならない。
(大谷委員)	今度の区民文化センターは新たな相鉄・東急直通線の駅から連絡しているが、東横線の利用者は直線距離にして 200m 程度、外を歩かなくてはならない。東横線の駅から施設までの地下道は確保し、傘をささなくてもアクセスが可能にしたいと地域の人は希望している。
(間瀬委員長)	資料4裏面にある施設のコンセプト・運営についての議論は次回に持ち越しとしたい。また、施設のコンセプトに関するキャッ

	<p>チフリーズは、平井委員に案をお願いしたい。 本日御欠席の稲田委員からコンセプト・運営について御意見の御連絡を頂いているのでこの場で御紹介したい。</p> <p>(事務局) 稲田委員からの意見について説明</p> <p>(間瀬委員長) 次回までに事務局には答申のたたき台の作成をお願いしたい。 次回それと併せて、今回できなかった議論も行っていきたい。 これで本日の審議事項は全て終了した。</p> <p>閉会</p>
<p>資 料 ・ 特 記 事 項</p>	<p>1 資料</p> <p>資料1 第2回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 席次表</p> <p>資料2 第1回横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 会議録</p> <p>資料3 港北区 区民文化センターニュース 第2号(案)</p> <p>資料4 区民文化センターの施設構成・内容、運営・コンセプトについて</p> <p>資料5 区民文化センターの分類</p> <p>2 特記事項</p> <p>次回は、平成27年11月25日(水)午後1時半開催予定。 場所は港北区役所特別会議室を予定。</p>

港北区 区民文化センターニュース 第3号

発行：平成27年12月15日

港北区では、相鉄・東急直通線の新駅整備を契機に行われる綱島駅東口周辺のまちづくりに合わせて、区の文化芸術活動の拠点として区民文化センターの整備を進めることとなりました。

現在、区民文化センターが区民の皆さんにとって「身近な文化活動の拠点」となるよう、「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会」を開催し、施設の基本的な方向性や、求められる機能、施設の管理運営や事業等について検討を行っています。

■ 第2回委員会で議論された内容について

10月28日(水)に第2回委員会が港北区役所において開催されました。

第1回での各委員からの意見を元に、区民文化センター内の各施設の仕様などについて議論しました。

■ ホールのタイプ（形状）について

委員会ではホールのタイプ（形状）について、「人口の多い港北区では、音楽・演劇・ダンスなど幅広いジャンルの利用が想定されるため、多目的ホールを採用すべき」との意見が各委員から出されました。

基本的なホールの形状には、音楽系ホール・多目的ホール・演劇系ホールなどのタイプがあります。

他区の区民文化センターでは、音楽系ホールや演劇系ホールなど特定の用途に特化したホールが整備されたこともありますが、近年では技術の進歩に伴い多目的ホールでも十分な音響性能が確保できるようになったことなどから、多目的ホールが整備されるケースが多くなっています。



音楽系ホール：残響時間が長くなるように設計されておりクラシック演奏に適しています。（写真：港南区）



多目的ホール：区民文化センターで最も多いタイプ。可動式の音響反射板を用い音響効果を変化させることで様々なジャンルの公演に対応します。（写真：神奈川区）



演劇系ホール：出演者の表情や身振りなどが鑑賞でき、一体感が味わえるよう舞台と客席との距離が工夫されているほか、セリフを聞き取れるよう残響時間を短くしています。（写真：泉区）

■ ギャラリーについて

ギャラリーについては、天井高（床から天井までの高さ）などが議論されました。

書道や大型の絵を展示するためには、天井高をある程度確保することが必要となりますが、利用者が高所で設営作業を行うため、安全性の確保が課題となります。

各委員からは、「3mの天井高を確保してほしい」といった意見が出された一方、「作品を掛けるピクチャーレールを天井近くだけではなく低いところにも取り付けるなど、高齢者などが作業しやすいよう安全性に配慮してほしい」といった意見が出されました。

そのほかにも、「照明設備は光の強さを調節できると良い」、「展示主催者が長期間滞在するため、主催者の休憩や来客との歓談のためのスペースが必要」といった意見がありました。



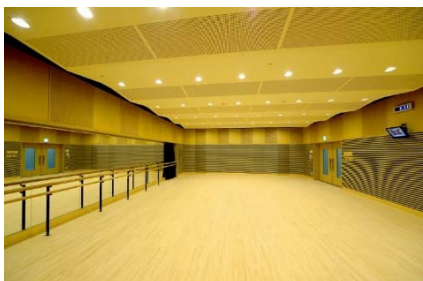
旭区「サンハート」ギャラリー

■ リハーサル室について

リハーサル室については、その広さや配置について議論されました。

リハーサル室は、区民文化センターの中で稼働率の高い施設の一つであり、現在区民文化センターの無い港北区では、文化活動を行っている団体の練習スペースの不足が指摘されてきました。

そのため、各委員から「港北で練習できるよう、しっかりとした仕様の部屋を確保してほしい」といった趣旨の意見が多く聞かれました。



具体的には、「ホールの主舞台と同等以上の広さを確保したリハーサル室が必要」、「ホールで大規模な発表会が行われる場合に備えて、リハーサル室が大きな楽屋として利用できるよう部屋の配置に配慮してほしい」といった意見のほか、「小規模な発表会にも使えるような仕様にしてほしい」などの意見が聞かれました。

緑区「みどりアートパーク」リハーサル室

■ 練習室・情報コーナーなどについて

練習室や情報コーナーなどそのほかの機能について、各委員から下記のような意見が寄せられました。

- 「他の区民文化センターでは練習室の利用が多いと聞いたので、広さに考慮した練習室が複数必要」
- 「みんなが気軽に打合せ・飲食などができる、カフェのような場所が必要」
- 「ロビーに十分な数の机・椅子を確保し、交流機能を充実させてほしい」
- 「団体同士を結び付けるような運営をしてほしい」
- 「コピー機などを設置して団体が活動しやすいようにしてほしい」
- 「トイレの個室の数を多く確保してほしい」



鶴見区「サルビアホール」練習室

■ 第3回委員会が開催されました

11月25日(水)に第3回委員会が開催されました。議論の内容については次号のニュースにてお知らせします。

■ 今後の委員会スケジュール(予定)

	日時	検討内容
第4回	平成28年1月28日(木) 午後1時半～午後4時	答申・答申概要版の議論・確定

※スケジュールは会議の進捗により変更となる場合があります。
※委員会において決定された答申は市長へ提出されます。

区民文化センターについて御意見がありましたら、下記の間合せ先に文書(FAX・Eメール・郵便)にてお寄せください。頂いた御意見への回答は行いませんが、委員会を進めていくにあたっての参考とさせていただきます。

発行：横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会事務局（横浜市港北区役所 区政推進課）
〒222-0032 横浜市港北区大豆戸町 26-1



電話：045-540-2229 FAX：045-540-2209 Eメール：ko-kusei@city.yokohama.jp
ホームページ：<http://www.city.yokohama.lg.jp/kohoku/suisin/kikaku/kubunkentou/>

横浜市港北区における区民文化センター基本構想

答申(たたき台)

平成 28 年●月

横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会

平成 28 年●月

横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 委員長 間瀬 勝一

もくじ

I 背景

- 1 横浜市の区民文化センターについて
- 2 区民文化センターの整備方針と市内の整備状況
- 3 港北区の特性・現状

II 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会について

III 港北区の区民文化センターの基本理念

- 1 基本理念
- 2 実現の方針「つなぐ」「育む」

IV 文化事業展開

- 1 港北区の区民文化センターが果たす役割
- 2 自主企画事業展開の例

V 施設運営

- 1 施設運営の基本的な考え方
- 2 管理運営主体と専門人材の配置

VI 施設構成

- 1 施設整備の基本的な考え方
- 2 施設内容

VII 整備予定地概要

VIII 参考資料

- 1 区民文化センターの標準的な機能
- 2 本市文化施設の分類・棲み分け
- 3 公会堂と区民文化センターの違い
- 4 横浜市内の文化施設の分布
- 5 区内の施設分布
- 6 区民の文化芸術への関心や活動状況
- 7 委員名簿
- 8 委員会での検討経緯と主な意見

I 背景

1 横浜市の区民文化センターについて

横浜市では、地域に根ざした個性ある文化の創造に寄与するため、区民文化センターを設置しています。(横浜市区民文化センター条例)

区民文化センターは、ホールやギャラリー、練習室等の機能(※)を備えた、地域の文化活動の拠点です。区民に身近な場所で、活動の場の提供や、文化芸術の育成・相談、普及・発信などを行い、区民の文化芸術活動やまちづくりに貢献するものです。

※…区民文化センターの備える機能は、区の実状に応じて異なります

2 区民文化センターの整備方針と市内の整備状況

横浜市の区民文化センターの整備方針は、「未整備区を対象として検討を進め、再開発等のまちづくりの機会に合わせて、区内にある文化施設や公会堂等他の公共施設の機能を踏まえ、区の特성에合わせて必要な機能を整備」するとしています。(横浜市中期4か年計画 2014-2017)

市内では、18区中10区に整備されていますが、港北区は未整備となっています。

※18区の区民文化センターの整備状況

整備済(10区)：青葉、緑、鶴見、旭、神奈川、泉、港南、戸塚、磯子、栄

整備中(1区)：瀬谷(基本構想検討委員会 26年度実施)

未整備(7区)：港北、都筑、保土ヶ谷、西、中、南、金沢

3 港北区の特性・現状

市の北東部に位置し、市内18区中で最大の約34万人の人口を抱える港北区は、鉄道網が充実し、東京都等へのアクセスが良く、市全体の人口が2020年頃をピークに減少することが予測される中、区の人口は引き続き増加が見込まれています。

区内では幅広いジャンルの文化活動が盛んに行われ、多くの区民が公会堂や地区センターなどを利用して練習・活動を楽しんでいます。しかし、区民文化センターが未整備で、文化芸術に適した日頃の練習・活動場所が不足していることが、長年の課題となっていました。

このような中、神奈川東部方面線(相鉄・東急直通線)の新綱島駅の整備に合わせて、再開発が行われることとなり、これを契機として区民文化センターの整備を検討することとなりました。

II 横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会について

港北区において区民文化センターを整備するにあたり、基本構想に関する事項を調査審議するため、「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会条例(平成27年6月5日条例第41号)」に基づき、市長の附属機関として「横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会(以下、「委員会」という。)」を設置しました。

有識者、区内の文化活動団体関係者、地域の代表者等で構成する委員会では、港北区にとってよりよい施設となるよう、基本構想(基本理念や運営、施設の構成など)について、計4回にわたって議論し、市長宛の答申としてまとめました。

Ⅲ 港北区の区民文化センターの基本理念

1 基本理念

HEARTでつながる、わたしたちの桃源郷

- 私たちの愛する港北のまち、区民文化センターを整備予定の綱島周辺は、明治後半から昭和初期にかけて、日本有数の桃の産地として栄えました。心と体を癒やす温泉もありました。そこかしこから湯けむりが立ち上り、桃の花が咲き誇る季節には、見渡す限りピンク色に染まりました。ちょうど区民文化センターと同じくらいの高さにある高台（通称：桃雲台）からの眺めは、この世のものとは思えないほど美しく、まるで「桃源郷」のようであったと言われています。
- 人の心にはアートがあります。
アートを通じて、区民が思い思いに交わり、つながりながら、ハートを通わせる。
まちのあちこちにアートがあふれ、回遊し、自由にいつでも、時には偶然につながる。
港北区の区民文化センターが、そんな心豊かな「桃源郷」のような地域社会をつくる拠点になってほしいという願いと、港北への愛着を込めて基本理念を掲げます。

2 実現の方針「つなぐ」「育む」

つなぐ

- オープン（空間・マインド）で、区民が普段着で気軽に、様々な文化にアクセスできる
- 文化・人・情報が交差し（クロッシング）、自由に交流して、新たなつながりを生む
- 地域とつながり、まちに文化や情報を張りめぐらせ（文化のウェブ）、出会いを創出する
- 日本や地域の歴史・文化を発信し、過去・現在・未来をつなぐ

育む

- 区民の心の中のアートを育み、心豊かな潤いのある生活を支える
- 日々の区民の文化活動を「フェイス・トゥ・フェイス」で支援・育成する
- 次世代の港北の文化を担う、地域の人材・アーティストの発掘や育成を行う
- 文化の薫るまちの風土や、区民のまちへの愛着を育み、個性ある文化を生み出す

IV 文化事業展開

1 港北区の区民文化センターが果たす役割

区民文化センターでは基本理念で掲げられた「**HEART**でつながる、わたしたちの桃源郷」を果たすため、実現の方策に基づき以下の役割を果たす施設と位置づけます。

(1) 施設提供・活動支援

区民の文化芸術活動を育み、練習、発表、展示、交流、情報提供などの拠点となる施設として区民文化センターが活用されるよう、積極的に施設提供（諸室の貸出）を行います。また、活動への助言や相談を行うなど、区民の文化芸術活動を支援します。

(2) 自主企画事業の展開

多くの区民が文化芸術活動に触れる機会を提供するため、また、区民の文化芸術活動を促進するため、多様な自主企画事業を展開します。

(3) 情報提供・交流促進

文化芸術活動や地域の歴史・文化などに関する情報を蓄積し、区民へ提供します。また、文化芸術団体をはじめとする様々な団体や、区民同士の交流を促進します。

(4) 地域連携・地域資源の活用

区内の文化施設や福祉施設、図書館、学校、自治会・町内会、商店街などと連携し、地域資源や地域人材を活用して、各種文化事業を展開します。

2 自主企画事業展開の例

(1) 鑑賞型事業

多くの区民が身近で気軽に、様々な文化芸術に触れることのできるプログラムを主体に、鑑賞する機会の充実を図ります。音楽や演劇、ダンス、展示など様々な文化芸術に親しむ区民を増やし、芸術文化活動を促進します。

例：音楽公演、演劇公演、ミュージカル、ダンス、落語、講演会、展示 など



区民文化センター主催公演

(2) 参加型事業

現在文化芸術活動に親しむ区民だけでなく、区民の誰もが参加し、文化芸術を体験できる参加型の事業を実施します。

例：各種ワークショップ、市民参加型の演劇やミュージカル など



ダンスのワークショップ

(3) 人材育成事業

将来の港北区の文化芸術を支える人材を育成します。また地域の人材を発掘したり、地域で活動するアーティストを支援し、港北区の文化芸術のステップアップを目指します。

例：レジデンスアーティストとの連携事業、舞台技術者育成プログラム など

(4) 普及事業

アウトリーチ活動を中心に、日常で文化芸術に触れる機会の少ない人や、子ども達・青少年など次世代を対象とし、文化芸術の普及に努めます。

例：学校、高齢者施設、障害者施設、病院等へのアウトリーチ、芸術文化教育プログラム、ワンコインコンサート など



小学校向けアウトリーチ

(5) 地域連携事業

地域の施設や団体と連携し、区民の文化活動への参加機会の提供や交流の促進をしながら、地域ネットワークを形成します。

例：自治会や商店街と連携したまちなかプログラム、港北区内文化施設まち歩きツアー など



商店街でのコンサート

V 施設運営

地域の文化拠点としての機能を果たすため、以下の点に留意して運営体制を構築します。

1 施設運営の基本的な考え方

文化芸術活動を展開し、区民の誰もが利用しやすく、日頃の文化芸術活動にとって使い勝手のよい、利便性の高い運営を行います。

施設の運営においては、現在の状況や区民意見を取り入れながら、来館者、利用者それぞれが利用しやすい利用の方法を構築します。

地域文化を支援するため、区民活動とのタイアップや、区民が自主企画事業の企画や運営に関わっていく仕組みを構築します。

2 管理運営主体と専門人材の配置

指定管理者制度の導入を前提とします。区民文化センターの管理・運営業務には、区民への公平で効率的な施設提供、多彩な分野の事業の展開、特殊な設備の管理運営など、特殊な技術と高い専門性が求められます。自主企画事業や区民の文化活動の育成・相談、地域と連携した文化活動のコーディネートなどができる、専門的な知識を有するスタッフ、技術者を配置し、適切な管理・運営を行います。

VI 施設構成

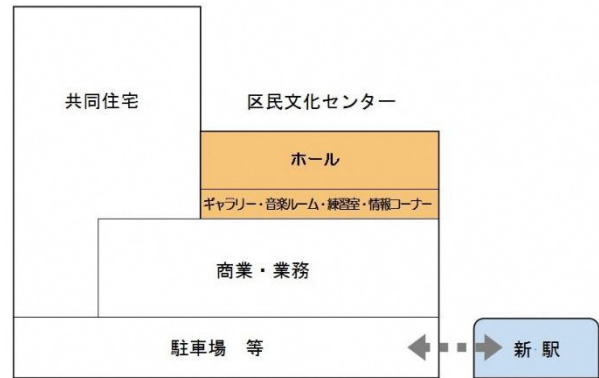
1 施設整備の基本的な考え方

区民に身近な文化施設として、多様なジャンルの文化芸術活動へ対応できる機能を備え、開放的で交流機能を重視した、人・文化・情報の出会いや、つながりが創出できる空間とします。

限られた空間を有効に活用するため、ニーズや近隣の公共施設等の設置状況を踏まえ、必要十分な機能を整備するとともに、ホール、音楽ルーム、ギャラリー、練習室などの諸室が、状況に応じてフレキシブルな運用ができるよう、配置や動線にも十分配慮します。

諸室は、区民の文化芸術活動を育む場として、日々の練習・活動に使いやすい仕様とします。

また、子どもからお年寄りまで、誰もが利用しやすい施設となるよう、法令の順守はもちろんのこと、ユニバーサルデザインに十分配慮します。



2 施設の内容

■ホール

【舞台】

- 音楽、演劇、ダンス、ミュージカル、バレエ、舞踊、講演会など、多様な区民活動に対応できる多目的ホールとします。
- 可動式の音響反射板を備え、生音の響きを活かす音楽公演にも十分対応できる音響性能を持たせます。
- 多様な演目に対応できるように、舞台面及び舞台袖の広さを可能な限り確保します。

【客席】

- 段床式の固定客席とします。標準的な区民文化センターは 300 席ですが、鑑賞環境に配慮した上で、可能な限り客席数を増やすこととします。
- 客席前方列を取り外すことで舞台を拡張できるよう、一部を取り外し可能な客席とします。車椅子席の鑑賞には、介助者も含め十分に配慮します。
- 客席後部に音響・照明等の各種調整室及び、多目的室(親子室を兼ねる)を配置します。

【付随機能】

- 小・中・大の楽屋を備え、防音にも配慮します。可動壁により少人数から大人数まで対応できる楽屋を整備します。
- 音楽、演劇、ダンス、ミュージカル、バレエ、舞踊、講演会など、多様なジャンルの活動に必要な設備・備品をバランスよく配置し、適切な倉庫を確保します。
- 音楽ルーム、練習室、会議室等を楽屋として利用できる配置計画とします。
- 楽器や大型の舞台大道具の搬入が可能なリフト及び 4tトラックの荷捌きに対応が可能な搬入口を整備します。
- 楽屋エリアには、給湯室、水場、多目的トイレを配置します。

■ギャラリー	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 標準的な広さ・壁長を備えたギャラリーとします。 ● 用途により展示スペースの大きさが変えられるよう、可動壁を備えます。 ● 200号程度の大型作品の展示が可能なよう、3m程度の天井高を確保します。ただし、部屋の一部が天井高3mに対応していることでも可とします。 ● 照明設備はダイヤル等で簡易的に調光できる設備を備えます。 ● 利用者が安全に展示準備をしやすい仕様とします。壁面の上部だけではなく、2m程度の高さにもピクチャーレールを設置するなどの工夫をします。また、ピクチャーレールを使わない展示にも対応できるよう、壁面の材質に考慮します。 ● 展示だけではなく、ワークショップや練習にも利用できるよう、可能な限り防音機能や部屋の明るさに配慮します。 ● 利用者の控室や倉庫を備えます。 ● ギャラリー内、またはギャラリーの近くに水場を設置します。
■音楽ルーム（リハーサル室）	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 「活動の場」としてニーズが高いため、多様な活動に対応できる仕様とします。 ● 100人程度の練習や簡易な発表会が可能な広さや設備を備えるものとします。 ● 舞台面を想定しての練習が可能なよう、ホール主舞台面の広さが有効範囲として利用できるスペースを備えます。 ● 多様なジャンルの活動に必要な設備・備品や、適切な倉庫を確保します。 ● バレエや舞踊の練習が可能なよう床材の質に配慮します。 ● ホールに付随した諸室として利用できるよう、配置と動線に配慮します。
■練習室	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様な利用に対応できるよう、広さと防音性能に配慮し複数室を整備します。 ● 音楽練習に対応した楽器類を可能な限り備えます。
■情報コーナー	
	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまなつながりを生み出す、オープンなスペースとして入り口の付近に設置します。 ● 机と椅子を適切に配置し、利用者が打合せや、交流に利用できるスペースを確保します。簡易的な喫茶や、自動販売機などを設置し、飲食が可能なスペースを設けます。 ● 図書館との連携や貸出の取次、歴史・文化などの様々な情報の充実を図ります。
■事務室	
	<ul style="list-style-type: none"> ● お客様対応のしやすい場所に事務室を配置します。
■会議室	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 近隣の地区センターなどの機能を踏まえ、情報コーナーなどとの機能の統合も検討します。
■その他の留意事項	
	<ul style="list-style-type: none"> ● 各諸室はホールの控え室としても利用できるよう、配置に配慮します。また、裏動線でホールと行き来できることとします。 ● 施設の機能が十分に発揮される様に、事務室や打合せスペース、倉庫などの配置に配慮します。 ● ユニバーサルデザインに十分に配慮し、多目的トイレや授乳室などを適切に配置します。

VII 整備予定地概要

現在の東急東横線綱島駅周辺において、相鉄・東急直通線の新駅整備に伴う再開発等のまちづくりが進められており、これを契機に港北区の区民文化センターを整備する予定です。

港北区と綱島駅(東急東横線)位置図



相鉄・東急直通線の路線概要図



相鉄・東急直通線(羽沢～日吉間)

整備延長：約 10.0km

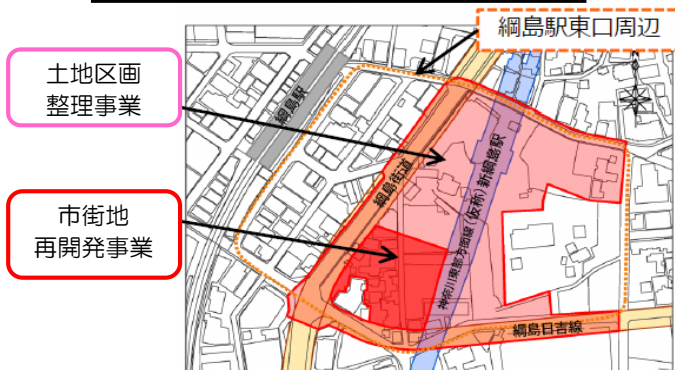
開業時期：平成 31 年 4 月

相鉄・JR直通線(西谷～羽沢間)

整備延長：約 2.7km

開業時期：平成 30 年度内

新綱島駅(仮称)周辺のまちづくり



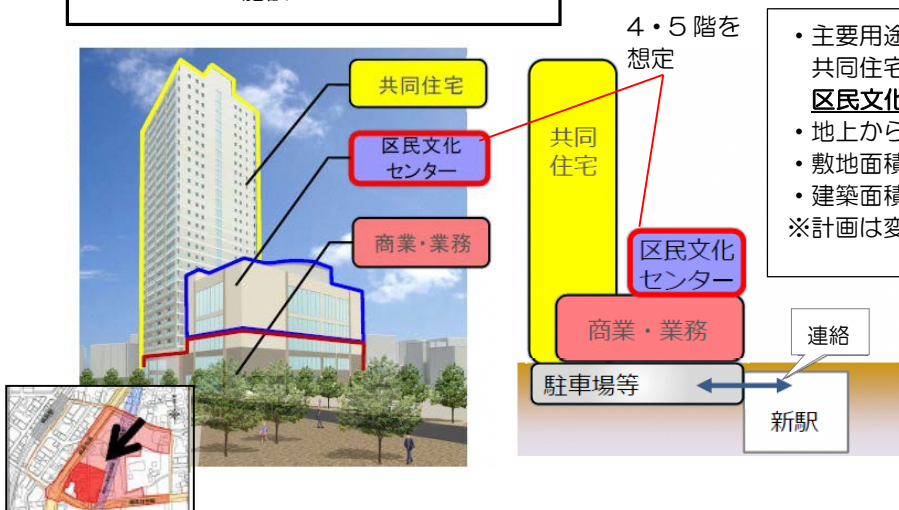
【土地区画整理事業の計画】(予定)

施行者 横浜市
 施行面積 約 2.7ha
 施行期間 平成 27 年度～32 年度
 公共施設 都市計画道路、駅前広場
 地下自転車駐車場

【市街地再開発事業の計画】(予定)

施行者 組合
 施行面積 約 0.5ha
 施行期間 平成 27 年度～31 年度
 主な施設 商業施設、都市型住宅、
 公益施設(区民文化センター)

施設イメージ



・主要用途

共同住宅(約 240 戸)、商業・業務施設、
区民文化センター、駐車場(約 110 台)等
 ・地上からの高さ：約 99.8m(高層部)
 ・敷地面積：約 3,800 ㎡
 ・建築面積：約 2,600 ㎡
 ※計画は変更となる可能性があります

VIII 参考資料

1 区民文化センターの標準的な機能(各区の地域特性に応じて異なる)

機能	規模・用途など
ホール	・300席程度、コンサートや演劇の上演など
音楽ルーム(リハーサル室)	・100㎡程度、小編成の音楽・ダンス等の練習・発表など
練習室	・3室程度(25㎡/室)、少人数の音楽練習など
ギャラリー	・160㎡程度、美術作品の展示など
会議室	・2室程度(28㎡/室)、創作ワークショップ・講座など
情報コーナー	・パンフレット、書籍など文化芸術に関する情報提供
文化事業の企画・実施	・自主事業、相談・育成、アウトリーチなど文化活動支援など
総面積	約2,800㎡~3,000㎡

2 本市文化施設の分類・棲み分け

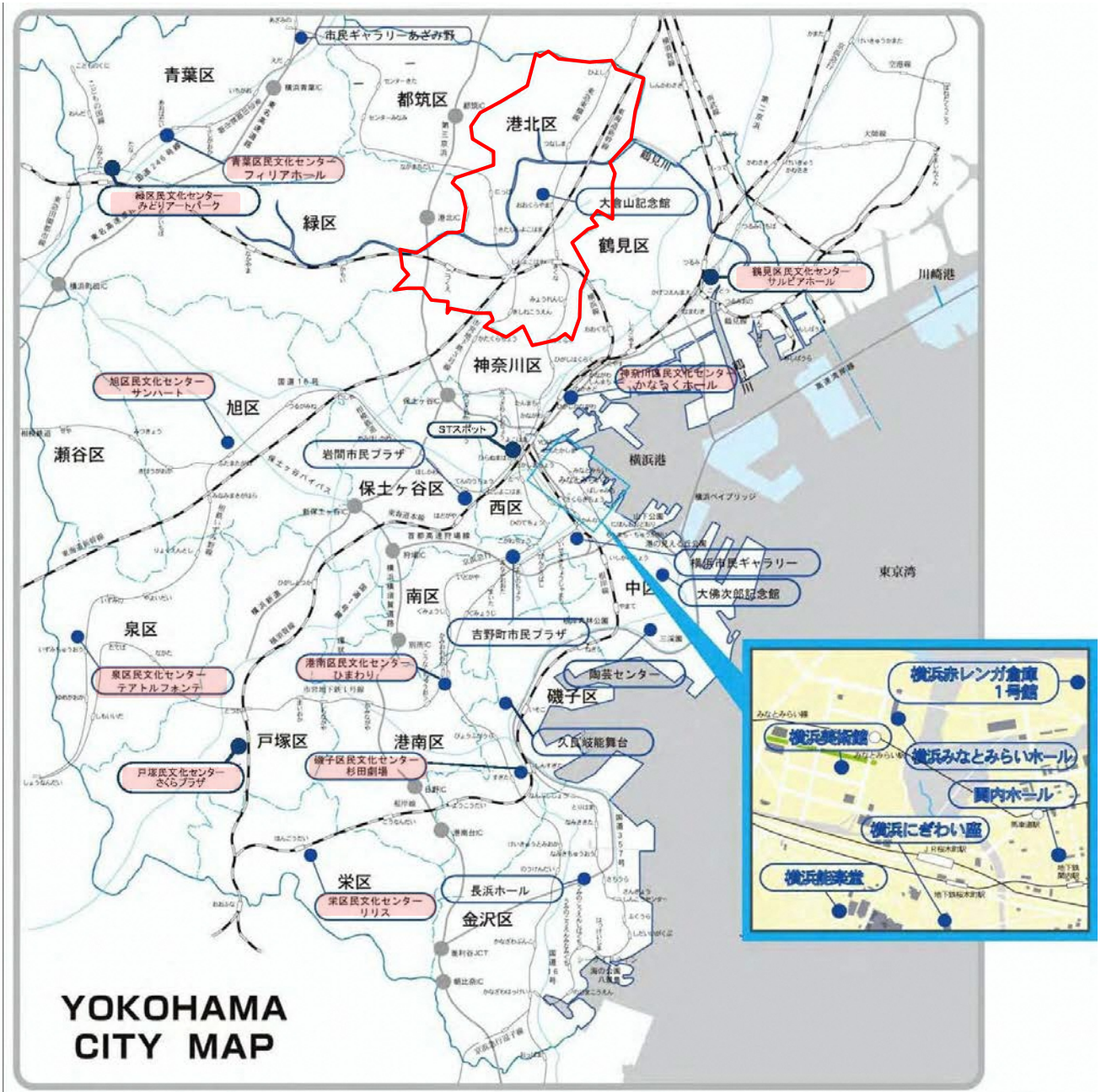
専門文化施設 (文化芸術創造拠点)	横浜みなとみらいホール、横浜美術館、横浜能楽堂など ・発信力のある文化芸術の創造や鑑賞 ・横浜市、わが国の文化芸術振興の拠点
市域文化施設	市民文化ホール(関内ホール)、市民ギャラリー、市民ギャラリーあざみ野など ・比較的規模の大きい団体や文化活動など、市民の活動・発表の場を提供
地域文化拠点	区民文化センター ・区民が身近に文化芸術の鑑賞、活動の場の提供 ・文化芸術活動の普及啓発、アウトリーチ活動、人材育成等

(「横浜市文化施設の機能等に関する懇談会」提言(平成22年12月)より抜粋)

3 公会堂と区民文化センターの違い

公会堂	多目的な集会施設 (市民の集会その他各種行事のために設置) ・貸館としての施設提供 ※公会堂の講堂には音響反射板を備えた、音楽ホールとしての水準を有するものも多い
区民文化センター	地域の文化振興の拠点 ・貸館に加え、鑑賞や創作、体験等の自主企画事業、アウトリーチを実施 ・文化芸術の普及・啓発を担う。専門人材が常駐し文化活動への相談へも対応

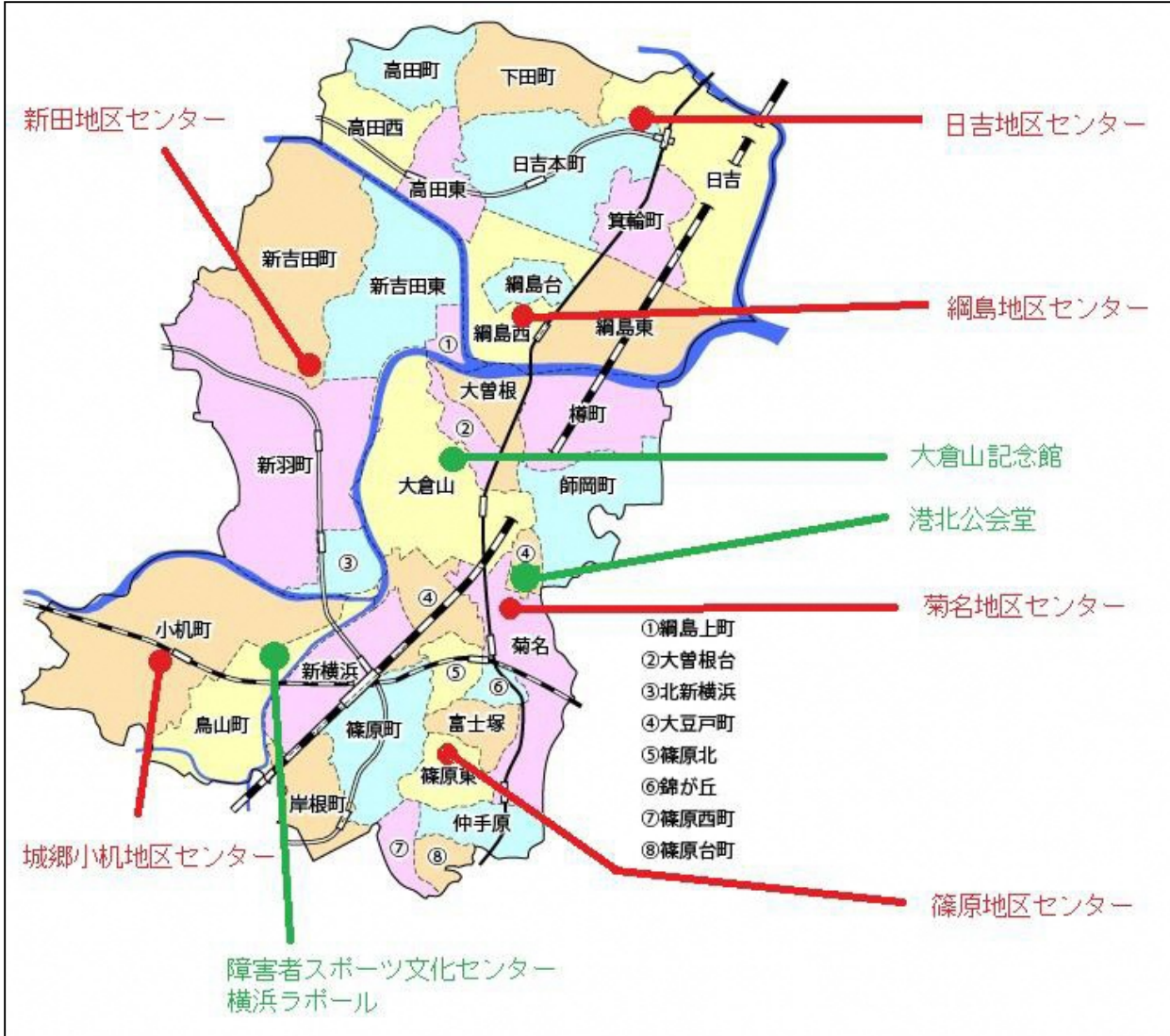
4 横浜市内の文化施設の分布(公会堂や地区センターは除く)



区民文化センター
 港北区域

5 区内の施設分布

- 区民文化センターの無い港北区では、文化施設である大倉山記念館の他、港北公会堂、ラポール、地区センターが活動の中心
- 防音等の機能を備えた、文化芸術の練習・発表に適した施設が不足



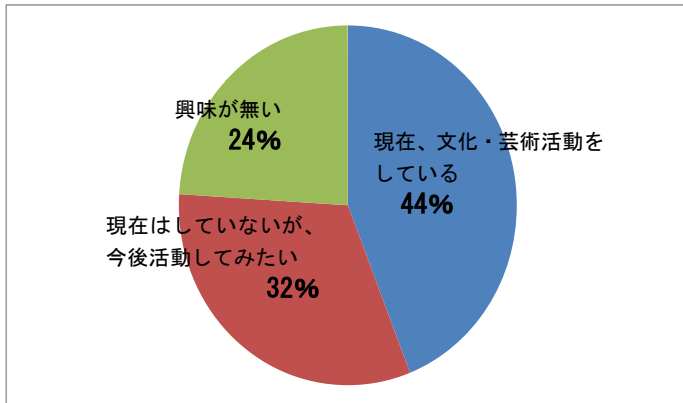
6 区民の文化芸術への関心や活動状況

(1) 港北区・文化芸術活動区民意識調査抜粋 (H18)

街頭アンケート(主要駅前等 10 地点、回答数 669 人)

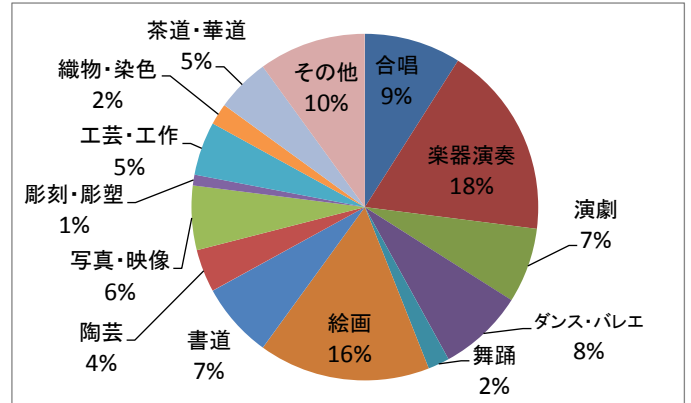
4分の3以上が文化・芸術活動に関心がある

Q1 あなたは現在、文化・芸術活動をしていますか/
または今後活動してみたいと考えますか？
(回答数：669 人、1 つのみ選択可、無回答あり)



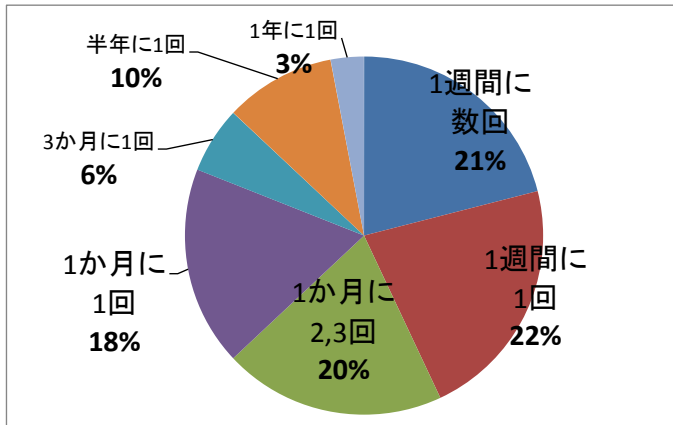
音楽・舞台・制作など幅広い分野に関心がある

Q2 どんな活動をしていますか/してみたいですか？
(回答数：507 人、Q1 で「活動している」または「活動してみたい」と回答した人、1 つのみ選択可)



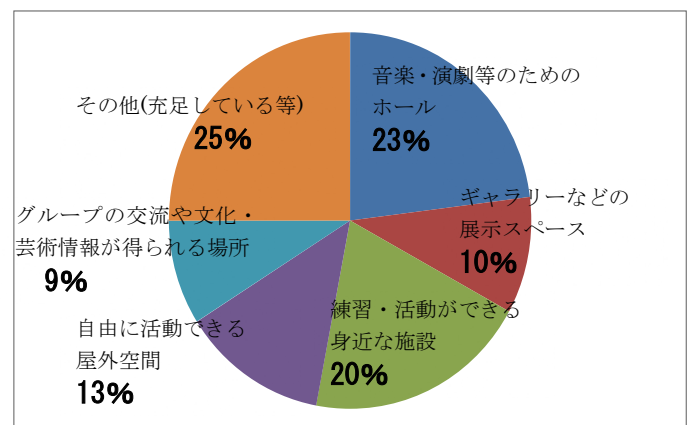
約4割が1週間に1回以上の頻度で活動している

Q3 どのくらいの頻度で活動していますか？
(回答数：298 人、Q1 で「活動している」と回答した人のみ、1 つのみ選択可)



ホール・練習場所・ギャラリーが不足している

Q4 港北区の文化・芸術支援施設で不足していると思うのはどれですか？
(回答数：669 人、1 つのみ選択可、無回答あり)



(2) 区内の文化活動団体からの意見

港北区における文化施設及び文化活動に関する調査抜粋(H26)

○現在の活動環境について

- ・大人数で練習するので、広い稽古場所を確保するのが大変。
- ・予約が取れず、定期的な練習ができない。
- ・公会堂にはリハーサル室や、リハーサル用のピアノが無く、音響が悪い。
- ・公会堂には舞台用の照明音響機材が整っておらず、持ち込みになるので費用がかさみ大変。

7 委員名簿

横浜市港北区における区民文化センター基本構想検討委員会 委員名簿

氏名	組織・肩書等
〈委員長〉 間瀬 勝一	公益社団法人全国公立文化施設協会 理事
〈副委員長〉 山本 貞	洋画家・日本芸術院会員 / 港北芸術祭実行委員会 会長 / 一般社団法人二紀会 理事長 / 一般社団法人日本美術家連盟 理事長
和泉 利政	港北区連合町内会会長（大曽根自治連合会会長）
稲田 奈緒美	舞踊研究・評論家 / 独立行政法人日本芸術文化振興会プログラムオフィサー（舞踊分野）
恵志 美奈子	公益財団法人せたがや文化財団劇場部 世田谷パブリックシアター 学芸グループリーダー
大谷 宗弘	綱島地区連合自治会会長
岡本 直美	港北区民ミュージカル実行委員会 事務局
木村 江里	港北ダンスフェスティバル実行委員会 委員長
砂川 由利子	港北区合唱の会実行委員会 委員長
砂田 俊彦	港北区民交響楽団 代表
平井 誠二	公益財団法人大倉精神文化研究所 研究部長
村上 テル子	港北芸能協会 副会長

(委員長・副委員長以外の委員は五十音順)

8 委員会での検討経緯と主な意見

委員会では全4回にわたり、様々な観点から検討を行いました。検討委員会での検討経緯と主な意見は以下のとおりです。

第1回 平成27年 8月27日(木) 午後1時半～午後4時
【検討にあたっての全体的な意見】 <ul style="list-style-type: none">◆ 現状では練習場所が不足していて、団体の活動場所の確保が難しくなっている◆ 公会堂では音響や照明が不足しているため、区民文化センターでは充実させてほしい◆ 可能であれば、ホールの客席数を多くしてほしい◆ 文化団体同士が、区民文化センターでつながり、分野を越え新しいものを創れるようになると良い◆ 高齢者や子育て家庭など様々な人が区民文化センターを通じ文化に触れる機会を設けることが重要◆ 地域の文化団体や、商店街などを巻き込みながら、様々な文化活動を展開していく事例もあるので、港北区でも区民文化センターができることで、そうした幅広い活動が可能になると思う
第2回 平成27年10月28日(水) 午後1時半～午後4時
【ホールに関する意見】 <ul style="list-style-type: none">◆ 音楽・演劇・ダンスなど幅広いジャンルの利用が想定されるため、多目的ホールが良いのではないかと◆ 車椅子席をなるべく多く確保できるとよい◆ 女性用トイレの数に配慮してほしい◆ ホールの設置階が4～5階になるので、搬出入に配慮してほしい 【ギャラリーに関する意見】 <ul style="list-style-type: none">◆ 部分的でも良いので3mの天井高を確保してほしい◆ 作品を掛けるピクチャーレールを天井近くだけではなく低いところにも取り付けするなど、高齢者などが作業しやすいよう安全性に配慮してほしい◆ 照明設備は光の強さを調節できると良い◆ 主催者が長期間滞在するため、主催者の休憩や来客との歓談のためのスペースが必要 【練習室・リハーサル室に関する意見】 <ul style="list-style-type: none">◆ 港北で練習できるよう、しっかりとした仕様の部屋を確保してほしい◆ ホールの主舞台と同等以上の広さを確保したリハーサル室が必要◆ リハーサル室を楽屋として利用できるよう部屋の配置に配慮してほしい◆ 小規模な発表会にも使える仕様にしてほしい 【会議室・情報コーナー等に関する意見】 <ul style="list-style-type: none">◆ ロビーに十分な数の椅子と机を確保し、交流機能を充実させてほしい◆ みんなが気軽に打合せや飲食などができる、カフェのような場所が必要◆ 団体同士を結び付けるような運営をしてほしい◆ コピー機や印刷機などを設置して団体が活動しやすいようにしてほしい◆ ロビーのトイレの個室の数を多く確保してほしい 【その他】 <ul style="list-style-type: none">◆ これまでの他区の区民文化センター整備の経験を活かした整備を行ってほしい◆ 動線や諸室の使い勝手を考慮した配置としてほしい

第3回 平成 27 年 11 月 25 日（水）午後 1 時半～午後 4 時

第4回 平成 28 年 1 月 28 日（木）午後 1 時半～午後 4 時

※会場はいずれも港北区役所会議室